

背景・目的

国や都道府県では、これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成し公表してきました。

国土交通省では、これに加えて、土地利用や住まい方の工夫の検討および水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取り組みを推進することを目的として、発生頻度が高い場合から比較的低い場合までの降雨規模毎に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階の浸水想定図」および「水害リスクマップ」を作成・公表することとしました。

なお、現在の多段階の浸水想定図および水害リスクマップは、物部川本川の氾濫のみを示しておりますが、今後は、物部川本川以外(支川)の河川氾濫や内水氾濫も考慮した図を作成・公表していく予定としております。

注意点

※多段階浸水想定図及び水害リスクマップは、水防法に基づく図ではありません。

※想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき令和2年3月に指定・公表したものを表示しているため、計算条件(河道条件、支川の氾濫を考慮など)が異なります。

※【短期河道・中長期河道】については、水害リスクマップに記載の時点における整備進捗状況を想定した河道条件で作成しており、今後整備状況は変化する可能性があります。

【多段階浸水想定図】

物部川の現在および今後の整備予定を河道条件として設定し、1/10、1/30、1/50、1/100規模の降雨での浸水想定をシミュレーションし図化したもの。

【水害リスクマップ】

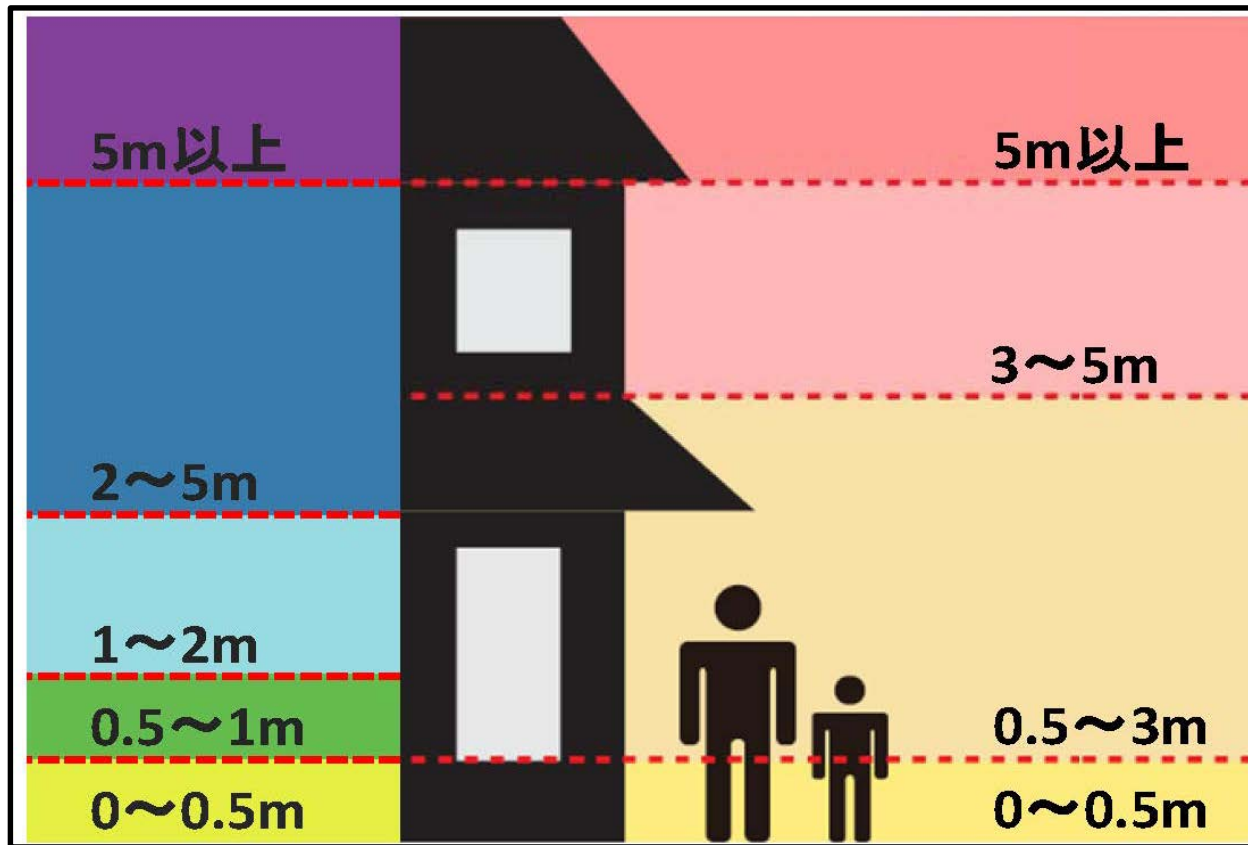
多段階浸水想定図を「浸水の深さ」「降雨の発生頻度」ごとに重ね合わせたもので、ある地点において●●cm(m)以上浸水する確率(リスク)がどの程度なのかを示した図面。

【河道条件】

それぞれの表す意味は下表のとおり。

河道条件	表す意味
現況河道	令和2年度末時点の河川整備状態
短期河道	令和7年度末時点の河川整備状態
中長期河道	物部川水系河川整備計画(平成22年4月)の完了

浸水深と家屋の関係



浸水深(m)	浸水の程度
0~0.5	床下浸水(大人の膝高)
0.5~1.0	床上浸水(大人の腰高)
1.0~2.0	1階の軒下まで
2.0~5.0	2階の軒下まで
5.0~	2階の屋根以上

年超過確率とその雨量とは

年超過確率

その雨量

1/10

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10(10%)

物部川流域で12時間の総雨量が257mm

※同程度の降雨：平成10年9月25日秋雨前線 【266mm/12h】

1/30

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30(3%)

物部川流域で12時間の総雨量が300mm

※同程度の降雨：平成30年7月豪雨 【270mm/12h】

1/50

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50(2%)

物部川流域で12時間の総雨量が317mm

※同程度の降雨：昭和45年8月台風第10号 【328mm/12h】

1/100

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1%)

物部川流域で12時間の総雨量が357mm

※同程度の降雨：昭和47年7月梅雨前線 【349mm/12h】

1/1000

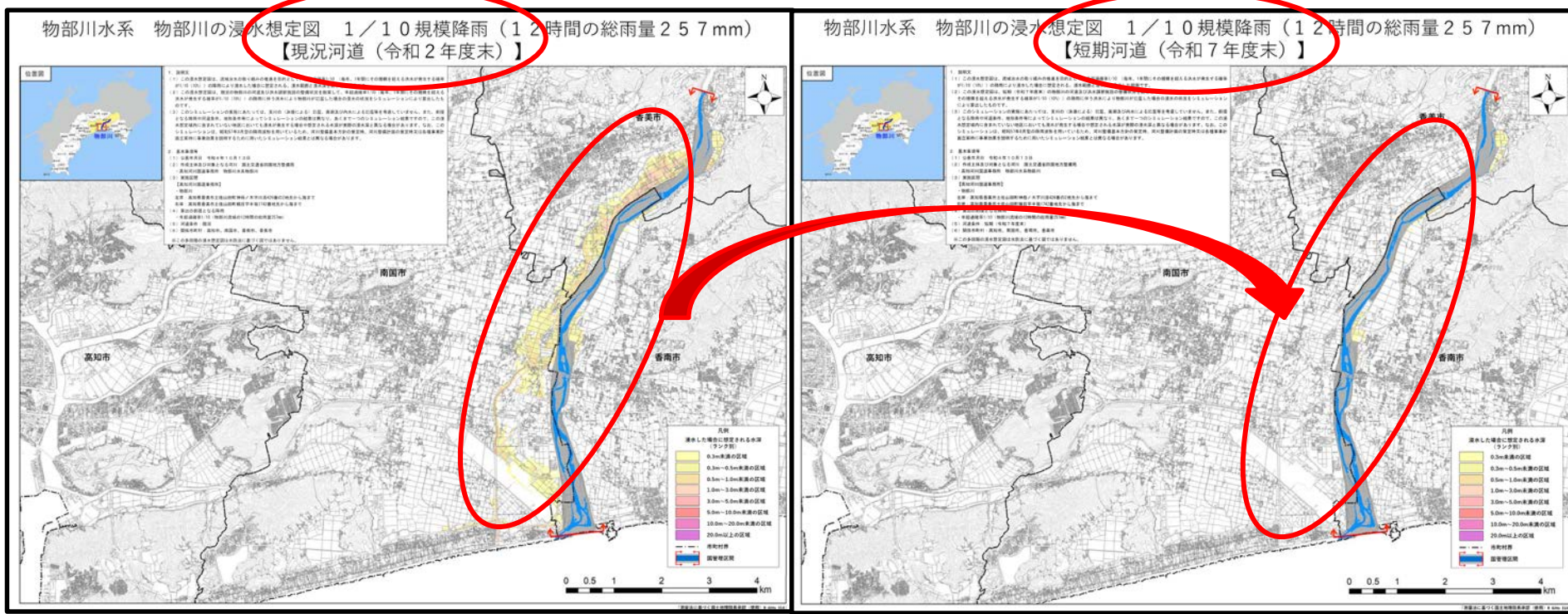
(想定最大規模)

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/1000(0.1%)

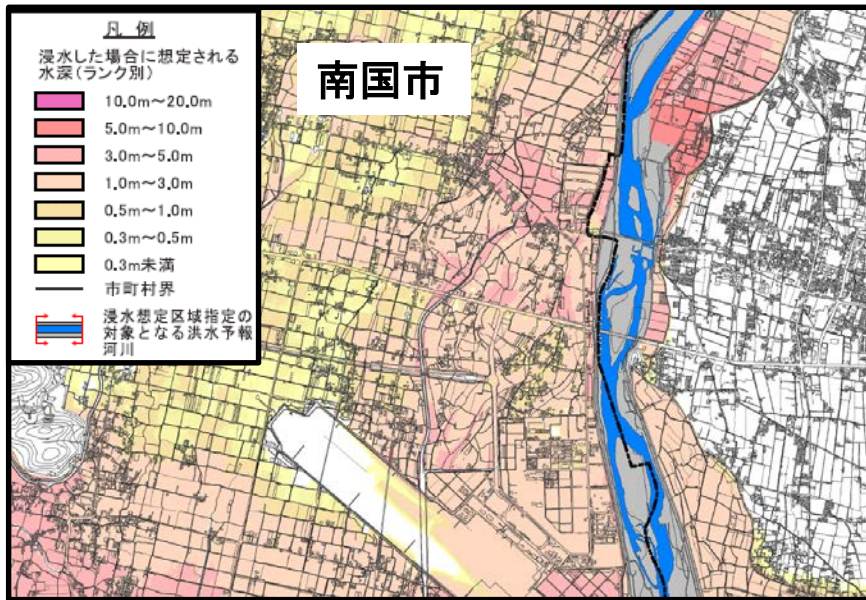
物部川流域で12時間の総雨量が681mm

※平成10年9月秋雨前線で実際に降った雨を物部川流域に降ったと仮定した場合

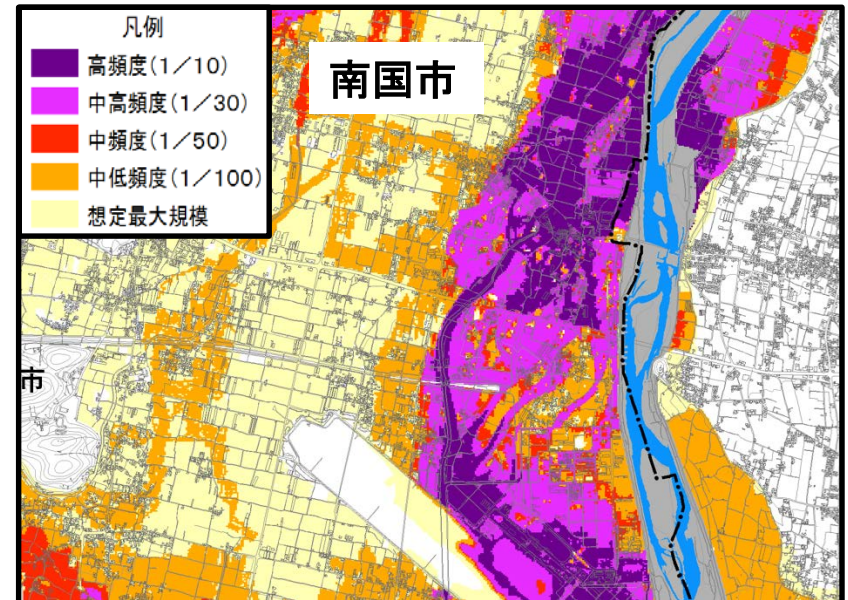
同じ規模の降雨で異なる河道条件を見比べて河川整備の効果を確認



洪水浸水想定区域図(想定最大規模)と水害リスクマップ



洪水浸水想定区域図 (想定最大規模)



水害リスクマップ
浸水する範囲

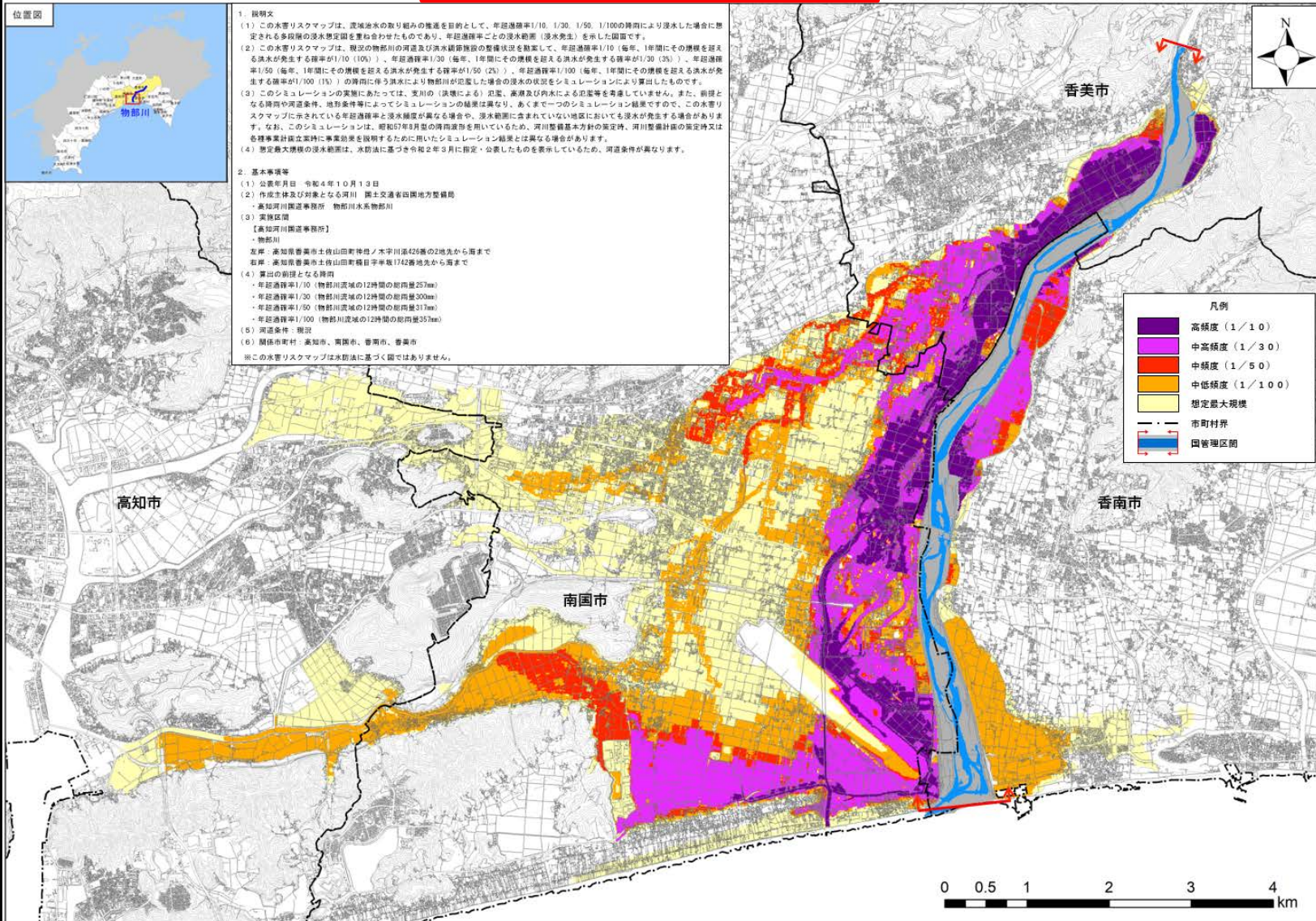
洪水浸水想定区域図(想定最大規模)では、被害の大きさ(浸水深)しか、表示していなかったが、水害リスクマップでは被害の発生確率を表示することにより、同じ浸水区域内であっても場所によってリスクが異なることを可視化することができる。

手順①まずは調べたい場所と河道条件を確認

物部川水系 物部川からの氾濫を想定した水害リスクマップ

【現況河道（令和2年度末）】

浸水する範囲を表示



水害リスクマップの具体的な見方・活用例

手順②3つの図を並べて見比べる

①浸水する範囲

②浸水深50cm以上
(床上浸水相当以上)

③浸水深3m以上
(2階床下浸水相当以上)

想定最大規模の雨でも2階以上は浸水しない場合の活用例

⇒ **【土地利用や住まい方の工夫に利用する場合】**

平屋建ては行わない。2階以上を居住スペースとする、ピロティ構造にするなど、建築構造の参考に活用することが可能。

⇒ **【企業BCPに利用する場合】**

事業継続に必要な資機材は2階以上に移動させる、止水壁を検討するなど、BCPの検討に活用することが可能。

想定最大規模の雨で2階以上が浸水する場合

⇒ **【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用する場合】**

既に公表している洪水浸水想定区域図(想定最大規模)で浸水深を確認し、避難所の場所や床高を検討することが可能。